

公開シンポジウム『越境する』社会学：近接領域と社会学理論との対話
の開催について

1. 主 催：日本学術会議社会学委員会社会理論分科会
2. 共 催：関東社会学会
3. 後 援：(未定)
4. 日 時：平成29年6月3日(土) 10:00～12:30
5. 場 所：日本大学文理学部
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

日本学術会議第22期の報告「社会学理論の復興をめざして」では、社会学理論を「社会学分野にとどまる研究ではなくて、さまざまな分野のディシプリンの成果を生かすことによって可能になる」とし、「すでに確立している学問分野をディシプリンの意義を十分に尊重した上で、『社会学理論』というキーワードのもとに、社会そのものを研究対象とする学術の意義を問い直そうとする」ことの重要性を指摘している。

本シンポジウムは、異なるディシプリンから、広くアジアに関わるさまざまな事象を対象にアプローチされている人文・社会系の4名の研究者をお呼びし、自らの研究からみた社会学がどのようなもので、その研究にとって社会学理論がどのような意味をもっているか／いないかをご報告いただくとともに、その具体的な発言を軸に社会学理論のあるべき姿について議論を深めていくことを目的とする。

8. 次 第：

10:00～10:10

開会の挨拶

遠藤 薫（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）

10:10～12:20

パネル・ディスカッション

【報告：近接領域と社会学理論】

「地域研究・経済学」 末廣 昭（学習院大学国際社会科学部教授）

「東洋史」 岸本美緒（お茶の水女子大学文教育学部教授）

「文化人類学」 木村忠正（立教大学社会学部教授）

「音楽学」 東谷 護（成城大学文芸学部教授）

【コメンテーター】

吉原直樹（日本学術会議連携会員、横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授）

正村俊之（日本学術会議連携会員、大妻女子大学社会情報学部教授）

12 : 10～12 : 20

閉会の挨拶 園田茂人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環・東洋文化研究所教授）

司会 遠藤 薫（日本学術会議第一部会員、学習院大学法学部教授）
園田茂人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院情報学環・東洋文化研究所教授）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の報告者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「高等教育における科学技術史と科学基礎論—『科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査』を踏まえて—」の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
2. 共 催：日本科学史学会、科学基礎論学会
3. 日 時：平成 29 年 6 月 4 日（日） 16：00～18：30
4. 会 場：香川大学教育学部
5. 分科会等の開催予定：なし

6. 開催趣旨：

これまで当分科会は高等教育における科学史・技術史関連の教養教育を中心とした現状・意義について継続的に審議し、現在各大学の実情等のヒアリングを進めてきている。シンポジウムは、日本学術会議の学術協力団体である日本科学史学会と科学基礎論学会と協力・共同し、前記の点を検討するために行われるものである。

上記の日本科学史学会は 2016 年に学会 75 周年事業の一環として、関連学協会の協力を得て、「科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査」に取り組んだ。この調査は科学史や技術史、科学哲学に加え、科学論、技術論、科学技術社会論、科学社会学、科学者倫理、技術者倫理、科学哲学なども含めた近接分野における関連科目の日本国内での開講状況を探ろうとするもので、その特色は、過去に行われた同様の調査を参考にしつつも、授業の開講形態や対象者、科学技術史的内容の含まれる度合いを聞くなど、より多様な情報を収集したことにある。

シンポジウムでは、同調査の成果を紹介する。その上で、共催団体の両学会ならびに当分科会からの更なる質的、量的な現場情報を持ち寄り、科学史・技術史および科学基礎論関連領域の授業がいかなる状況にあり、どのような変化が生じているのか、そして今後どうあることが望ましいのかを、フロアからの意見を交えて考察し検討する。学部と大学院の違い、教養と専門教育、そして科学史、技術史、科学哲学などの分野ごとの差異を踏まえた議論を行ない、その実情・課題を包括的に明らかにする予定である。

7. 次 第：

開 会
報 告

- | | |
|-------------|---|
| 16：00～16：05 | 趣旨説明（コーディネーター）：
<u>隠岐さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学部教授）</u> |
| 16：05～16：30 | 「『科学史・技術史関連科目の開講状況に関する調査』について」
杉本舞（日本科学史学会委員、関西大学社会学部准教授）
<u>隠岐さや香（日本学術会議連携会員、名古屋大学大学院経済学部教授）</u> |
| 16：30～16：50 | 「高等教育における科学基礎論・科学哲学・科学の倫理」
村上祐子（科学基礎論学会理事、東北大学大学院文学研究科准教授） |

16 : 50～17 : 00 (休憩)

17 : 00～17 : 20 「教養教育における科学史・技術史関連科目の現状と位置づけ」
小長谷大介 (日本科学史学会普及委員、龍谷大学経営学部教授)

17 : 20～17 : 40 「大学教育の分野別質保証と科学技術史 (仮)」
佐野正博 (日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授)

17 : 40～18 : 00 「方法論としての科学史を生かした大学院教育：学際的大学院における
院生指導の実践から」
松原洋子 (日本学術会議連携会員、立命館大学大学院先端総合学術
研究科教授)

18 : 00～18 : 30 総合討論

閉 会

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

(下線の報告者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「社会の中での認知心理学の受容と齟齬：
もう一つの社会につながる心理学を目指して」の開催について

1. 主 催：日本学術会議心理学・教育学委員会社会のための心理学分科会、日本認知心理学会

2. 日 時：平成 29 年 6 月 4 日（日）14：30～16：30

3. 場 所：慶応大学三田キャンパス西校舎 517 教室

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

現代社会における認知研究の重要性や意義については科学政策や研究界の意識としては高いものの、産業界を含む社会での受容はそれほど高まっていないという厳しい現実もある。本シンポジウムでは、社会の中での認知心理学の受容をめぐる、産業界での認知心理学者の人材活用や産学共同研究の現実、社会に対して認知心理学者がアピールする能力の見せ方、さらには認知心理学の教育カリキュラムなどについて話題提供・議論したい。それを通して、社会の中で認知心理学がどのように受容され、またどのような齟齬があるのか、これからの認知研究の展望を含めて「社会」との接点を探っていききたい。

6. 次 第：

司会 川畑 秀明（慶應義塾大学文学部准教授）

14:30～14:35 本シンポジウムの意義と目的：日本認知心理学会社会連携委員会から
熊田 孝恒（京都大学情報学研究科教授）

14:35～14:45 学術会議での議論から社会のための心理学を考える

箱田 裕司（日本学術会議第一部会員、京都女子大学発達教育学部教授）

14:45～15:05 企業から見た心理学（認知心理学を中心として）

三枝千尋（花王（株）感性科学研究所研究員）

15:05～15:25 企業で働きながら心理学を学ぶ価値はどこにあるか

磯田 和生（大日本印刷（株）AB センターマーケティング本部社員）

15:25～15:45 学会の中での社会連携の動き：心理学学修者にとっての出口問題

熊田 孝恒（京都大学情報学研究科教授）

15:45～16:05 企業における心理学インターンシップの試み

深谷美登里（（株）東芝デザインセンターデザイン統括部研究員）

16:05～16:30 コメントと議論

指定討論 原田悦子（日本学術会議連携会員、筑波大学人間系心理学域教授）

7. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の報告者等は主催分科会委員）

公開シンポジウム「音声言語・手話言語のアーカイブ化の未来」の
開催について

1. 主 催：日本学術会議言語・文学委員会科学と日本語分科会

2. 共 催：日本女子大学文学部

3. 後 援：未定

4. 日 時：平成 29 年 6 月 10 日（土）14：00～17：00

5. 場 所：日本女子大学目白キャンパス 新泉山館 大会議室

6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

言語・文学委員会科学と日本語分科会の提言「音声言語および手話言語の多様性の保存・活用とそのための環境整備」を受けて、将来の音声言語・手話言語のデータベースのあり方、およびそのアーカイブ化の意義についての公開討論を行う。

8. 次 第：

14：00 「音声言語の多様性、その保存・活用」（仮題）
木部 暢子（日本学術会議第一部会員、人間文化研究機構国立国語研究所副
所長・教授）

14：30 「自然言語の多様性とは」
酒井 邦嘉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院総合文化研究科教授）

15：00 「音声言語と手話言語をつなぐもの」（仮題）
菊澤 律子（国立民族学博物館準教授）

15：30 「手話のインターアクションと手話言語のデータベース化の意義」（仮題）
坊農 真弓（国立情報学研究所準教授）

15：30～15：50 （ 休憩 ）

15：50 総合討論
（司会）松森晶子（日本学術会議連携会員、日本女子大学文学部教授）
（コメンテーター）清水康行（日本女子大学文学部教授）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

史料保存利用問題シンポジウム
「地域史料の保存利用と公文書管理の在り方」の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会、同歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会、
日本歴史学協会
2. 後 援：全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（調整中）、日本アーカイブズ学会
3. 日 時：平成 29 年 6 月 24 日（土）13：30～17：30
4. 場 所：駒澤大学 駒沢キャンパス 1 号館 1-204 教場
5. 分科会等の開催：なし

6. 開催趣旨

人口減少に伴う地方の衰退等によって、地域史料—とりわけ民間所在史料—の「消滅」が憂慮される事態が深刻さを増している。多発する大災害への対応として、被災史料のレスキュー活動が各地で成果を上げている一方で、民間所在史料の所在情報の整備を始めとして、日常的な地域史料の保存活動を充実させる必要性が、これまで以上に高まっているのではないか。そのためには、それぞれの地域の史料保存利用機関の果たすべき役割・機能が、益々重要なものとなろう。

一方、2011 年 4 月に施行された「公文書管理法」は、地方自治体に対し、保有する文書の適正な管理と、そのために必要な施策の策定・実施に努めるよう求めているが、同法の見直しの時期に当たり、アーキビストの養成・資格認定問題とともに、史料保存利用機関の運用の在り方などを、改めて考える機会が必要ではないか。

このようななかで、地域の史料保存利用機関の現状を見据え、今後の方向性を探ることは、地域史料を確実に保存し、未来へ伝えてゆくために喫緊の課題といえよう。そこで、今回のシンポジウムでは、如上の問題意識を踏まえ、史料保存利用機関の立場から、また利用者の立場から、それぞれ報告をいただき、地域史料の保存利用と史料保存利用機関の役割・機能について、改めて議論することにした。

7. 次第

13：30～13：35 開会挨拶

高埜利彦（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）

13：35～13：45 趣旨説明

佐藤孝之（日本歴史学協会史料保存利用特別委員会委員長）

13：45～15：45 報告

（第 1 報告）西向宏介（広島県立文書館主任研究員）

「自治体文書館のあゆみと地域史料保存—広島県立文書館の場合—」

（第 2 報告）上田良知（神奈川県立公文書館非常勤職員）

「神奈川県立公文書館の現状と課題—全量選別と人員配置を中心に—」

（第 3 報告）小関悠一郎（千葉大学教育学部准教授）

「地域史料の保存利用と資料ネット

—千葉県歴史・自然資料救済ネットワークの活動を通して—」

15：45～16：00 休 憩

16：00～16：10 コメント

若尾政希（日本学術会議連携会員、一橋大学大学院社会学研究科教授）

16：00～17：25 質疑応答

17：25～17：30 閉会挨拶

木村茂光（日本学術会議連携会員、帝京大学文学部史学科教授、
日本歴史学協会会長）

8. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の報告者は、主催分科会等委員）

公開シンポジウム「教育と学術の明日を考える」（仮題）の開催について

1. 主催：日本学術会議第一部
2. 共催：島根大学
3. 日時：平成 29 年 7 月 30 日（日）13：00～17：00
4. 場所：島根大学・大学ホール
5. 分科会等の開催：開催予定（第一部会）

6. 開催趣旨

今期（23 期）の日本学術会議第一部は、さまざまな分野にわたる多数の提言を発出してきた。ただし、これらの提言を関係者さらには市民に伝え、その内容について対話することは課題として残されている。提言の広報・フォローアップが十分に行われていないことについては、今期 2 年目の活動状況に関する外部評価においても指摘されているところである。そこで、今期最後の夏季部会では、これまでの提言の中から「教育と学術の明日」に関わるものを選び出し、これをもとに、島根大学、高校などの教員、さらには広く市民、学生の皆様からご意見や質問をいただく機会を設けることとした。「教育と学術の明日」に関わる提言は、今期の第一部が取り組んだ重要な課題の一つであり、社会的な関心も高いと考えられるからである。このシンポジウムが来期の第一部の活動に寄与することを期待している。

6. 次第：

総合司会 小松久男（日本学術会議第一部会員、東京外国語大学特任教授）

13：00－13：10 開会挨拶（島根大学と日本学術会議とから）

島根大学 調整中

大西隆（日本学術会議会長・第三部会員、豊橋技術科学大学学長）

第 1 部 これからの教育を考える（仮題）

13：10－13：50

- I. 提言「ことばに対する能動的態度を育てる取り組み—初等中等教育における英語教育の発展のために」をめぐって

報告：梶茂樹（日本学術会議第一部会員、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）

コメント：調整中

質疑応答

13：50－14：30

- II. 提言「18 歳を市民に一市民性の涵養をめざす高等学校公民科の改革」をめぐって

報告：小玉重夫（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

コメント：調整中

質疑応答

14 : 30－15 : 10

Ⅲ. 提言「「歴史総合」に期待されるもの」をめぐって

報告：久保 亨（日本学術会議第一部会員、信州大学人文学部教授）

コメント：調整中

質疑応答

15 : 10－15 : 25 休憩

第2部 提言「学術の総合的發展をめざして一人文・社会科学からの提言」をめぐって

15 : 25－16 : 55

報告：三成美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長・教授（研究院生活環境科学系））

コメント1：調整中

コメント2：調整中

コメント3：調整中

質疑応答

16 : 55－17 : 00 閉会の挨拶

井野瀬久美恵（日本学術会議副会長・第一部会員、甲南大学文学部教授）

（下線の報告者等は、主催部（第一部）会員）

公開シンポジウム「歯科基礎医学の臨床医歯学への応用と展開」の開催について

1. 主 催：日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会
2. 共 催：歯科基礎医学会
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー
4. 日 時：平成 29 年 9 月 18 日（月）9:00-11:00
5. 場 所：松本歯科大学（長野県塩尻市）
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

歯科基礎医学における重要な使命の一つは、その研究成果を臨床へ還元させることである。医学、歯学でトランスレーショナルリサーチ、橋渡し研究という言葉が用いられて久しいが、臨床歯科医学においてそれらが実践された優れた例は未だに少なく、この点を克服することは、今後、歯科医学をさらに発展させるために極めて重要なポイントである。

日本学術会議歯学委員会基礎系歯学分科会が行った我が国の歯科大学・大学歯学部における「基礎系研究分野における教員の出身学部及び大学院生数に関するアンケート調査」で、基礎系研究室では臨床系研究室から多くの大学院生の研究委託を受け、基礎-臨床の連携を図っていることが明らかになった。そのため、トランスレーショナルリサーチを推進するための基本的な研究体制はある程度構築できていると予想される。次のステップとして、基礎と臨床の連携をさらに活性化することを念頭において、今年の第 58 回歯科基礎医学会総会で日本学術会議シンポジウム「歯学研究における基礎と臨床のシグナル伝達」を開催した。このような背景を踏まえて、本シンポジウムでは、先端的研究を推進している研究者の中から研究内容、研究分野のバランスを配慮して人選した 4 名の先生方に「歯科基礎医学の臨床医歯学への応用と展開」に関するご講演をいただき、歯科医学におけるトランスレーショナルリサーチの新たな展開を図ることを目的とする。

8. 次 第：

座長：東 みゆき（日本学術会議第二部会員、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子免疫学分野教授）

上條 竜太郎（昭和大学歯学部口腔生化学講座教授）

シンポジウム

- 1) 9:00-9:10 「シンポジウムの趣旨説明」

山口 朗（日本学術会議第二部会員、東京歯科大学口腔科学研究センター客員教授）

- 2) 9:10-9:35 「関節軟骨の生体恒常性の維持および破綻機構の統合的理解に基づく革新的医療技術の開発」

西村 理行（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院歯学研究科生化学教室教授）

- 3) 9:35-10:00 「口腔マイクロバイオームの病原性の解明へのアプローチ」

山下 喜久（九州大学大学院歯学研究院口腔予防医学分野教授）

- 4) 10:00-10:25 「環境因子による自己反応性獲得機構の解明～自己免疫疾患の新たな病因論～」

石丸 直澄（徳島大学大学院医歯薬学研究部口腔分子病態学分野教授）

- 5) 10:25-10:50 「X線を用いた微量元素分析技術の生体材料評価と生物組織分析・診断への応用」

宇尾 基弘（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科先端材料評価学分野教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「農的エネルギーの新展開」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会農業生産環境工学分科会
2. 共 催：九州大学エネルギー研究教育機構
3. 後 援：九州大学大学院農学研究院、日本農業気象学会、日本生物環境工学会、日本農業工学会、農業施設学会（すべて予定）
4. 日 時：平成29年6月5日（月） 13：30～17：30
5. 場 所：九州大学伊都キャンパス 椎木講堂
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

本シンポジウムでは、2100年の未来社会における健全なエネルギーシステムのあるべき姿を共有し、農（農山村、農業、農業者）における、バイオマスの地域循環利用を機軸とした持続可能な次世代エネルギー利活用モデルを議論する。

8. 次 第：

13:30 開会挨拶

大政謙次（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、愛媛大学大学院農学研究科客員教授、高知工科大学客員教授）

13:35 趣旨説明

北野雅治（日本学術会議連携会員、九州大学大学院農学研究院教授）

講演：

司会：鈴木義則（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）（予定）

13:40 九州大学エネルギー研究教育機構のビジョン（仮題）

若山正人（九州大学理事・副学長）

13:50 未来社会のエネルギーシステムのあるべき姿（仮題）

佐々木一成（九州大学副学長・大学院工学研究院主幹教授・水素エネルギー国際研究センター長・次世代燃料電池連携研究センター長）

14:30 農におけるエネルギーシステムのあるべき姿（仮題）

矢部光保（九州大学大学院農学研究院教授）

<休憩> 14:55-15:10

司会：早川誠而（日本学術会議連携会員、山口大学名誉教授）（予定）

- 15:10 農村バイオマスの地域循環利用（仮題）
石井一英（北海道大学大学院工学研究院准教授）
- 15:35 都市バイオマスと農業（仮題）
大門裕之（豊橋技術科学大学教授・国際交流センター長）
- 16:00 農工・産学・国際連携によるバイオマス利用エネルギー循環システムの開発
白鳥祐介（九州大学大学院工学研究院准教授）
- 16:25 京都大学新附属農場の次世代エネルギー利活用モデル（仮題）
北島 宣（京都大学大学院農学研究科教授）
- 16:50 総合討論
進行：北野雅治（日本学術会議連携会員、九州大学大学院農学研究科教授）
- 17:25 閉会挨拶
真木太一（日本学術会議連携会員、九州大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無： 第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開学術講演会「アフリカ研究 50 年ー日本の国際貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第二部
2. 共 催：長崎大学
3. 後 援：日本医歯薬アカデミー、公益財団法人日本学術協力財団（すべて予定）
4. 日 時：平成 29 年 8 月 5 日（土） 13:30～16:30
5. 場 所：長崎大学医学部良順会館ボードインホール（長崎県長崎市）
6. 分科会等の開催：開催予定（第二部会）
7. 開催趣旨：日本の大学による最も特徴ある国際貢献として、京都大学の霊長類生態研究と長崎大学の熱帯病対策研究があげられる。長崎大学を中心としたアフリカにおける海外医療協力と学術共同研究を紹介するため、50 年にわたり現地で研究活動が続けている京都大学の総長である山極壽一先生を筆頭に、長崎大学の得意分野を生かした感染症を専門とする熱帯医学研究所及び熱帯医学・グローバルヘルス研究科の第一線の研究者の講演を企画した。
8. 次 第
 （司会）山下 俊一（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）
 開会挨拶
 大西 隆 （日本学術会議会長・第三部会員、豊橋科学技術大学学長、東京大学名誉教授）
 片峰 茂 （長崎大学学長）
 講演 「ゴリラと歩いたアフリカ」
 山極 壽一（日本学術会議第二部会員、京都大学総長）
 講演 「アフリカでの感染症研究：長崎大学の 50 年と日本の方向性」
 金子 聡 （長崎大学熱帯医学研究所教授）
 講演 「漢方を用いた熱帯病治療薬の開発研究」
 平山 謙二（長崎大学熱帯医学研究所長）
 講演 「ねむり病は眠らない」
 北 潔 （長崎大学熱帯医学・グローバスヘルス研究科長）
 講演 「エボラ出血熱、ラッサ熱の流行発生地を経てシェンバイツアー博士ゆかりの地へ」
 安田 二郎（長崎大学熱帯医学研究所教授）

閉会挨拶 長野 哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、東京大学創薬機構
客員教授）

（下線の講演者等は、主催部（第二部）会員）

公開シンポジウム「ソーシャルオープンデータの活用における課題と価値創造」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議情報学委員会ユビキタス状況認識分科会
2. 共 催：慶應義塾大学地域 IoT と情報力研究コンソーシアム
3. 後 援：一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会（すべて予定）
4. 日 時：平成 29 年 5 月 23 日（火）13:00～17:30
5. 場 所：日本学術会議 6 階 6-C(1)(2)(3)会議室
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

情報通信技術の進化により、インターネットとあらゆるモノの融合により、新たな付加価値を創造する IoT (Internet of Things) への期待が高まっている。特に、行政、環境、エネルギー、防災、交通、製造、医療、教育、スマートホーム等の応用分野で、接続されたサービス(コネクテッドサービス)が創出され、社会的課題の解決に大きく貢献している。一方、多くの従来型情報システムは、応用領域に特化した垂直型システムで作られており、他の領域間でのデータの流通／連携／解析が進んでいないのが現状である。本シンポジウムでは、IoT、ビッグデータ、AI 等の情報通信技術を使い、領域間にまたがる新たな価値創出をめざしたオープンイノベーションを促すためのソーシャルオープンデータの活用における課題とその将来動向に関して議論する。

8. 次 第：

- 13:00 開会挨拶
徳田 英幸（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構理事長、慶應義塾大学客員教授）
- 13:10 講演「医療・健康におけるソーシャルオープンデータの活用と課題」
東野 輝夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）
- 13:40 講演「スマートシティにおけるソーシャルオープンデータの活用と課題」
山本里枝子（日本学術会議連携会員、富士通研究所システム技術研究所所長）
- 14:10 講演「防災関連におけるソーシャルオープンデータの活用と課題」
原 隆浩（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）
- 14:40 講演「ロボット・自動運転におけるソーシャルオープンデータの活用と課題」
萩田 紀博（日本学術会議連携会員、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）知能ロボティクス研究所所長）
- 15:10－15:30 （ 休憩 ）
- 15:30 講演「医療におけるソーシャルオープンデータの活用と課題」
河野 隆二（日本学術会議連携会員、未来情報通信医療社会基盤センター長）
- 16:00 講演「環境におけるソーシャルオープンデータの活用と課題」

木俣 豊（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所長）

16 : 30 総合討論

(司会) 徳田 英幸（日本学術会議第三部会員、国立研究開発法人情報通信研究機構理事長、慶應義塾大学客員教授）

(パネリスト)

美濃 導彦（日本学術会議連携会員、京都大学学術情報メディアセンター教授）

東野 輝夫（日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院情報科学研究科教授）

山本里枝子（日本学術会議連携会員、富士通研究所システム技術研究所所長）

萩田 紀博（日本学術会議連携会員、国際電気通信基礎技術研究所（ATR）知能ロボティクス研究所所長）

中澤 仁（慶應義塾大学環境情報学部准教授）

17 : 30 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「日本の科学と産業の停滞と復興」の開催について

1. 主 催：日本学術会議総合工学委員会未来社会と応用物理分科会
2. 共 催：公益社団法人応用物理学会
3. 日 時：平成29年6月22日（木） 13：30～17：00
4. 場 所：日本学術会議講堂 外1室
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨： 科学技術立国をうたうわが国であるが、その足元では学術や産業が地盤沈下している客観的データが内外で示されている。このような状況を正面から見据え、科学と産業がなぜ凋落したのか応用物理の視座から議論し、再興への道筋を見出してゆくことを開催の趣旨とする。
7. 次 第：
 - 13：30 開会の辞 河田 聡（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
 - 13：35 挨拶 大西 隆 （日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長） 交渉予定
 - 13：40 挨拶 保立 和夫（日本学術会議第三部会員、豊田工業大学副学長・教授、応用物理学会会長）交渉中
 - 13：45 講演「日本の大学の研究競争力の停滞」
豊田 長康（鈴鹿医療科学大学学長、元三重大学学長）
 - 14：15 講演「電子立国は、なぜ凋落したか？」
西村 吉雄（技術ジャーナリスト、元東京大学大学院工学系研究科教授）
 - 14：45 講演 「スター・サイエンティストと日本のイノベーション」
牧 兼充 （政策研究大学院大学助教授（専門分野：科学技術政策））
 - 15：15 講演 「若者が切り開く産業の未来」
講演者交渉中（金沢工業大学）
 - 15：45－16：00 （ 休憩 ）
 - 16：00 総合討論
（司会）河田 聡（日本学術会議連携会員、大阪大学大学院工学研究科教授）
（パネラー）
保立 和夫（日本学術会議第三部会員、豊田工業大学副学長・教授、応用物理学会会長）交渉中
豊田 長康 （鈴鹿医療科学大学学長、元三重大学学長）
西村 吉雄（技術ジャーナリスト、元東京大学大学院工学系研究科教授）
牧 兼充 （政策研究大学院大学助教授（専門分野：科学技術政策））
交渉中（金沢工業大学）

16 : 50 閉会の辞

中野 義昭（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

8. 関係部の承認の有無： 第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 総合工学委員会 原子力事故対応分科会

2. 日 時：平成 29 年 6 月 8 日（木）13：00～17：10

3. 場 所：日本学術会議講堂 外 1 室

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

原子力総合シンポジウムは、これまで 50 年以上にわたり続いてきた、我が国の原子力について、総合的に議論を行う場である。日本学術会議と関連学協会が協力し、各界の識者を交えて、中長期的視点から総合的な議論が行われてきた。

東京電力福島第一原子力発電所の事故より 6 年を経過した今日においてもなお、避難を余儀なくされている方々が多数おられるなど、今後もこの事故への対応に、長期に亘る継続的な努力が必要とされている。

そこで、今回の原子力総合シンポジウムにおいては、2つのテーマ、「原子力事故による影響と社会的側面」と「原子力利用将来像」を取り上げ、原子力に関する現下の社会的課題と、原子力利用の将来像の両面の視点からの議論を行う。その際、技術的な側面とともに、人文社会学的、社会心理学的側面の議論を行うことで、学术界と社会との間の乖離を無くし、社会の理解促進の一助とすることを期待したい。

6. 次 第：

13：00～13:10 開会挨拶

大倉典子（日本学術会議会員、芝浦工業大学工学部教授）

13：10～13:20 日本学術会議代表挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

13：20～14:50 パネル討論：テーマⅠ「原子力事故による影響と社会的側面」

司会：森口祐一（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

パネリスト：

樺田尚樹（国立保健医療科学院生活環境研究部長）

藤垣裕子（東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授）

宮原要（国立研究開発法人日本原子力研究開発機構福島環境安全研究センター長）

14：50～15：10 （ 休憩 ）

15：10～17:00 パネル討論：テーマⅡ「原子力利用将来像について」

司会：柘植綾夫（日本学術会議連携会員、科学技術国際交流センター前会長）

講演：「原子力利用将来像について」

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長）

パネリスト：

佐野正博（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）

関村直人（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科教授）

矢川元基（日本学術会議連携会員、公益財団法人原子力安全研究協会会長）

17：00～17：10 閉会挨拶

上坂充（東京大学大学院工学系研究科教授）

7. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「低炭素・健康な生活と社会の実現への道筋」の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・土木工学・建築学委員会合同低炭素・健康社会の実現への道筋と生活様式・消費者行動分科会、健康・生活科学委員会、環境学委員会
2. 共 催：一般社団法人 日本建築学会、公益社団法人 土木学会、公益社団法人 日本建築士会連合会、他（すべて予定）
3. 後 援：低炭素社会推進会議（予定）
4. 日 時：平成 29 年 6 月 23 日（金）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会等の開催：開催予定

7. 開催趣旨：パリ協定が発効して、世界は今世紀後半に温室効果ガス排出の実質ゼロとすることを目指し、持続可能な開発目標 SDGs が採択されて都市の在り方についての目標・指針が掲げられた。我が国でも地球温暖化対策計画が閣議決定されたことを受け、省エネルギー化、低炭素化は、建築・交通・都市の空間設計にかかわるステークホルダー全員の責務である。加えて、高齢化の進展下でこれを達成しなければならない。アジアについても、成長が継続しつつ、なおかつ我が国以上の速度で高齢化が進行する一層厳しい状況にある。

本分科会（低炭素・健康社会の実現への道筋と生活様式・消費者行動分科会）では、低炭素・健康社会の実現を目指して、20 世紀型の大量生産・消費のパラダイムの下にもたらされた経済成長、環境負荷増大、健康被害という流れを変えて、充足文明への転換による低炭素化と健康で質の高い QOL を両立させるための方策を探ることを目的とした提言をまとめた。本シンポジウムでは、その提言案を関係者に紹介し、その実施可能性についての討論を行い、提言の最終的なまとめに資する。

8. 次 第：

13：00 あいさつ

花木啓祐（日本学術会議副会長・第三部会員、東洋大学情報連携学部教授）

13：05 シンポジウムの趣旨

吉野 博（日本学術会議第三部会員、東北大学総長特命教授）

13：15 新しいライフスタイルと行動変容の動機づけ

報告：坂井 文（日本学術会議連携会員、東京都市大学都市生活学部教授）

討論：中上英俊（日本学術会議連携会員、株式会社住環境計画研究所代表取締役会長）

小玉祐一郎（日本学術会議連携会員、神戸芸術工科大学教授）

仙田満（日本学術会議連携会員、放送大学客員教授）

関係省庁の方々

14：00 成熟社会のための低炭素・健康都市のデザイン

報告：浅見泰司（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

討論：梅干野晃（日本学術会議連携会員、放送大学教授）

南一誠（日本学術会議連携会員、芝浦工業大学工学部教授）

森本章倫（日本学術会議特任連携会員、早稲田大学理工学術院教授）

関係省庁の方々

14：45 住宅・建築の低炭素対策と創エネの加速化

報告：田辺新一（日本学術会議連携会員、早稲田大学創造理工学部建築学科教授）

討論：柏木孝夫（日本学術会議連携会員、東京工業大学特命教授）

高田光雄（日本学術会議連携会員、京都美術工芸大学工芸学部長・建築学科長・教授）

伊香賀俊治（日本学術会議連携会員、慶応義塾大学理工学部システムデザイン工学科教授）

関係省庁の方々

15：30－15：40 （ 休憩 ）

15：40 総合討論

（司会）林 良嗣（日本学術会議連携会員、中部大学総合工学研究所教授）

吉野 博（前出）

（コメンテーター）米田雅子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学先端研究センター特任教授）

福井秀夫（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授）

那須民江（日本学術会議第二部会員中部大学生命健康科学部教授）

関係省庁の方々

（総括）村上周三（日本学術会議連携会員、一般財団法人建築環境・省エネルギー機構理事長）

17：00 閉会

9. 関係部の承認の有無：第二部・第三部承認

（下線の登壇者は、主催委員会及び分科会委員）

市民公開講演会「グローバル成長を支えるエネルギー戦略と未来構想
～北部九州の取組 影から光へ～」の開催について

1. 主 催：日本学術会議第三部、九州・沖縄地区会議、国立大学法人九州工業大学
2. 後 援：北九州市、一般社団法人九州経済連合会（すべて予定）
3. 協 賛：（公財）北九州観光コンベンション協会
4. 日 時：平成 29 年 8 月 1 日（火） 14：00～17：15
5. 場 所：九州工業大学 記念講堂
（福岡県北九州市戸畑区仙水町 1 番 1 号）
6. 分科会等の開催：開催予定（第三部会）

7. 開催趣旨：

平成 28 年度に開催された「G7 北九州エネルギー大臣会合」の場でもあった北九州市で再生可能エネルギー及びその他の低炭素技術の革新、省エネを含む、エネルギー分野における戦略と未来構想について、一般市民を対象とした講演会を開催する。

8. 次 第：（予定）

14:00 開会

司 会

高原 淳（日本学術会議第三部会員、九州大学先導物質化学研究所主幹教授）

14:00 開会挨拶

尾家 祐二（日本学術会議第三部会員、九州工業大学学長）

14:05 日本学術会議会長挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

14:10 講演 1 「北九州市の環境とエネルギー戦略について（仮）」

古田 直子（北九州市 環境未来都市推進部長）（予定）

15:10 講演 2 「地産地消の地域エネルギー 北九州パワーの取り組み（仮）」

千歳 昭博（株式会社北九州パワー 代表取締役）

15:40 講演 3 「炭素戦略から見たエネルギー未来構想」

林 潤一郎（九州大学先導物質化学研究所長・教授）

16:10－16:25（ 休憩 ）

16:25 パネルディスカッション

「環境とエネルギーの調和の観点からみたエネルギー未来構想」

コーディネーター

早瀬 修二（九州工業大学 理事（研究・産学連携担当））

パネリスト

古田 直子（北九州市 環境未来都市推進部長）（予定）

千歳 昭博（株式会社北九州パワー 代表取締役）

林 潤一郎（九州大学先導物質化学研究所長・教授）

三谷 康範（九州工業大学大学院工学研究院教授）

玉田 薫（日本学術会議連携会員、九州大学先導物質化学研究所副理事・教授）

17:10 閉会挨拶

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授）

17:15 閉会

（下線の講演者は、主催部（第三部）会員）

提案30は後援のため、資料5本紙を御参照ください。